

トヨタ博物館だより

TOYOTA AUTOMOBILE MUSEUM

- 04. 企画展予告 「甦れ! クルマたち ~博物館のレストア活動~」
- 05. 展示車紹介 パナール・ルヴァッソール B2
- 09. スタッフ紹介 車両整備室
- 10. ギャラリー展 「クルマ写真 宝箱 PART1 ~五十嵐平達コレクションより~」
- 11. カーオッチャング 72 クラシックカーの運転席廻り(13) シトロエン5CV
- 12. FROM TAM ARCHIVES ダットサン サニー1000
- 13. TAM INFORMATION 寄贈情報・お知らせ他

NO.82
2010.OCTOBER



01. 特集企画「はたらく自動車」

夏の企画展

じどうしゃ

はたらく自動車

2010年7月17日土—9月26日日 会場：本館2階特別展示室

今回、6台のはたらく自動車と、その自動車に乗ってはたらく人を紹介しました。はたらく自動車は、どんな役割を持ち、どんなふうに活やくしているのか、はたらく人は、どんな仕事をして、どんな思いではたらいているのか、疑問に思うことを、調査隊が取材・調査し、報告するというスタイルです。7/17~8/28の毎週土曜日と9/20の祝日には、車両実演を行い、実際に車が動く様子を見たり、はたらく人と接することで、本物の迫力に触れていただきました。



はたらく自動車・調査隊

調査隊ノート

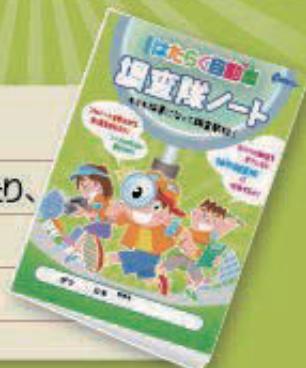


子供に配布された企画展オリジナルワークブック。

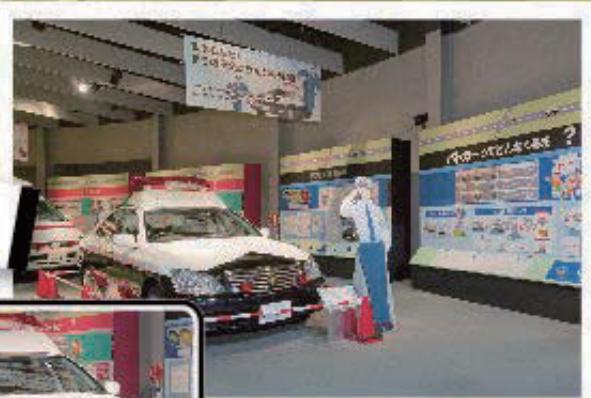
これを持って、パネルや車両を詳しく見て質問に答えたり、

スタンプラリーを楽しんでもらいました。

また巻末には図鑑やぬりえなども掲載しました。



パトカーコーナー



トヨタ救急車
ハイメディック
2004年式



トヨタクラウン
パトロールカー
2005年式

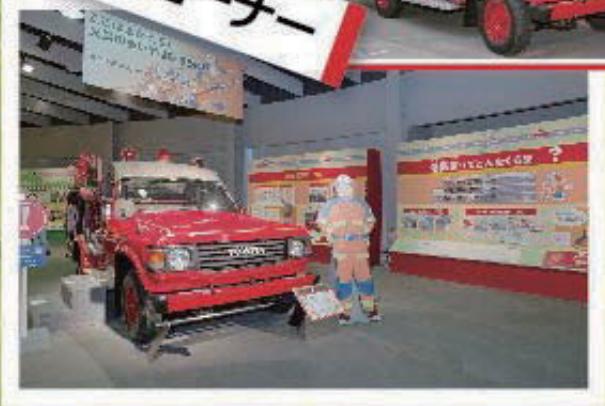


救急車コーナー



各コーナーには簡易制服を設置。
着用して撮影ができました。

消防車コーナー



トヨタ消防車
1968年式



ハイウェイ・パトロール・カーコーナー

トヨタ
ハイラックスサーフ
2007年式



フォークリフトコーナー



トヨタL&Fカンパニー
GENEO-B
2010年式



油圧ショベルコーナー



コマツ PC18MR-3
2010年式



車両展示・実演 協力者一覧

愛知県愛知警察署／愛知県警察本部／警察庁／コマツ
株式会社豊田自動織機／トヨタ輸送株式会社／中日本高速道路株式会社
中日本ハイウェイ・パトロール名古屋株式会社
長久手町消防本部・署／社団法人日本自動車連盟（JAF）愛知支部
株式会社前田製作所 コマツ名古屋

今回、取材や調査をして分かったことは、はたらく自動車が、その仕事に合った特殊な機能をたくさん持っていること、「みんなが安心・安全・快適にいつまでもすごせるように」と、はたらく人たちが、毎日、たくさんの訓練を、一生懸命にしていることでした。この展示を見た方が、はたらく自動車と、はたらく人の興味を深めて、身近な車やはたらく人への理解につなげていただければうれしく思います。



はたらく自動車 実演イベント

7/17
(土)

交通安全教室&パトカー・白バイ走行

企画展期間中に車両実演イベントを7回行い、多くのお客様に迫力ある実車の動きを見ていただくことができました。下記のように、ご協力先からコメントをいただきました。



フォークリフトの荷物積み上げ実演

フォークリフトは力持ちなクルマだということを感じていただけましたか？ みなさんの生活を影で支えるクルマとして、普段見かけることは少ないと思いますが、今回の実演で身近に感じてもらえたうれしいです。

7/31
(土)

レッカー車による車両けん引実演

真夏の日差しが照りつける暑い中、大勢のお客様に見学して頂きありがとうございました。子供さんの質問コーナーで「かっこ良かったです」とのお言葉を頂き、私達も大変励みになりました。



ポンプ車と救助工作車の実演

今回実演したポンプ操法もカッター操法も、普段のやり方と違うため、本番に向けてたくさん訓練をしました。その結果、当日はメンバー全員が一丸となり、お客様に喜んで頂けるよう全力を尽くせた事が一番良かったです。

8/21
(土)

油圧ショベルとかにクレーンの実演

油圧ショベルとかにクレーン、お楽しみいただけましたか？ 「こんな小さいショベルがあるの？」「かにクレーンって、こんな風に動くんだね」とたくさんお声を掛けて頂きました。もし街中で見かけたら、ぜひ思い出してくださいね。



キャリアカーへの車両積込み実演

キャリアカーは、日頃皆さんの目に留まる機会が少ないせいか、実演時にはお子さんだけでなく、親御さん方からも大歓声が起り、反響の大きさに驚きました。今後も皆様の大切なお車を安全第一でお運びして参ります。

9/20
(月・祝)

ハイウェイ・パトロールカーと除雪車の実演

写真撮影では、多くのお客様から「お仕事頑張って下さい」という心温まる言葉をいただきました。本日、お客様から頂いた温かい言葉を私達の励みとし、お客様に高速道路を安全・安心・快適にご利用頂けますよう頑張ります。



協力: 中日本高速道路(株)、中日本ハイウェイ・パトロール名古屋(株)、中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株)

情熱

人・汗

甦れ！クルマたち

企画展 ~博物館のレストア活動~

Reviving Historic Cars
~An overview of our restoration activities~

期間：2010年10月9日（土）～2011年1月10日（月・祝）

場所：トヨタ博物館・本館2階特別展示室



レストアは車両の修復のことで、トヨタ博物館では古いクルマを当時の姿に復元し展示しています。

その活動は、当時の技術や社会がわかる調査研究の「宝箱」といえます。

今回はその「宝箱」から「研究成果」「モノづくりのこだわり」「情熱」を伝えます。

戦前車両のレストアの「ビフォー・アフター」や当館車両のレストア作業の舞台裏をはじめ、

祖父が製作した車両保存にかける情熱や自社製品を修復するボランティアグループなど紹介します。

目玉はパナール・ルヴァッソールB2で、この企画展に合わせ走行状態に整備できました。

企画展初日には走行披露させます。実現すれば、国内で110年ぶりの走行となります。



巧み

<展示予定車>

パナール・ルヴァッソールB2 (1901年)

ダットサン・フェートン11型 (1932年)

ダットサン・ロードスター (1934年)

筑波号 (1935年)

ピュイック<木炭乗用車> (1937年)

チャイアント・コニーAA27型 (1961年)

after

企画展連動イベント「サイエンス講座」

11月20日（土）12月4日（土）11:00～、13:30～（各90分）

レストアをテーマした教室「さび」「オイルの劣化」など4テーマ
詳細はホームページをご覧ください。

研究力

パナール・ ルヴァッソール B2

杉浦 孝彦

【1901/フランス】

ホットチューブ 点火エンジン



panhard et levassor

パナール・ルヴァッソールとは

ガソリン自動車が走り始めた頃の主役であるパナール・ルヴァッソールを紹介する当館の解説です。(以後、パナール・ルヴァッソールはP/Lと表記)

「当時の自動車のほとんどは馬車や自転車を改造したようなもので、エンジンを載せる位置は座席の下や後部がほとんどでした。そんな中でP/L社は自動車にふさわしい構造を考えました。それは1891年に完成していた構造でエンジンを前に置いて、クラッチ→ギアボックス→チェーンで後車軸に、その回転を後輪に伝えて走るフロントエンジン・リアドライブ方式(システム・パナール)です。」19世紀半ば、木工機械・ミシンなどを作る会社の創業者の息子、ル

ネ・パナールと友人エミール・ルヴァッソールがP/L社を設立しました。その後、ダイムラー・エンジンのフランスでの製造権を取得し、自動車への進出を始めます。自動車を作る上でもっとも難しかったエンジンの開発をダイムラー社に任せ、P/L社は自動車全体の完成度を上げていきました。

2つのエピソード

その1 史上初の自動車レースで優勝

1894年、新聞社主催の信頼性トライアルレースがパリからルーアン間115kmで行われ、電気自動車、蒸気自動車、ガソリン車などが混在して参加、プジョーとパナールのガソリン車が優勝を分けあいました。(同じ頃、プジョーもルヴァッソールの薦め

でダイムラー設計のエンジンを搭載)。

翌1895年には、史上初の本格的な自動車レースとなったパリとボルドーを往復する約1200kmのレースでP/Lは平均時速約24kmで走りぬきトップでゴールしました。その後も数々の自動車レースで優勝したことから、パナールの方式は他のメーカーへも普及してきました。

その2 日本初渡来の自動車「P/L」

初来日した自動車には諸説ありますが、交通史研究家・齊藤俊彦氏の考察を元に、当館学芸員・故鈴木忠道氏がフランス自動車雑誌「LA FRANCE AUTOMOBILE」より1898年P/Lの日本初渡来記事を発見しました。

P/L社はその後、高級車メーカーとして成長。第2次大戦後は大衆車にも進出を図り、人気の高い「ディナ」シリーズを発表。また、ル・マンやモンテカルロラリーなどでも活躍しましたが、経営面は不安定で、1965年に支援を受けていたシトロエン社に完全吸収されました。そして1967年には世界で2番目に古い自動車会社P/Lの名は消えました。

以上、P/L社の解説ですが、今回はこの展示車の走行まで漕ぎ着けた車両整備活動を紹介します。以下は整備スタッフの記録を、エンジン周りを中心に抜粋・編集したものです。



展示車について

本車両は当館開館の前年、欧州の個人コレクターから現地の大手代理店を仲介とし購入されました。その購入資料に「1901年パナール・ルヴァッソールB2」と記されています。



しかし、諸元データなど不明確な部分も多く、未だ可動できずにある車両であり、1991年3月から調査・研究を始めました。

エンジンまわりで調査したい項目

- ① 製造年は1901年式?
- ② 排気量3562ccは本当か?
- ③ 今は無いホットチューブ点火方式の詳細とエンジン始動方法

①② 製造年と排気量

以前、調査したが明確に年代を示す文献は見つからず、時系列に整理した資料が残されました。整備室スタッフが手作りの計器で計測(ピストンのシリンダー径とストロークを測定)し、排気量は約2400 ccと割り出し、文献から2416ccと推定しました。この排気量とエンジン気筒数により、生産年が公称の1901年より古く、1897~99年頃ではないかと推測しています。

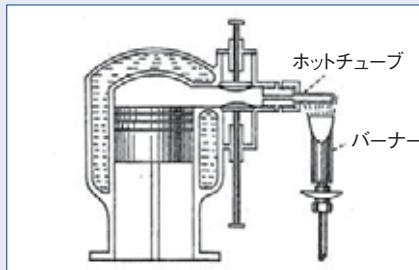
③ ホットチューブ点火方式の詳細

基本的な構造については文献でわかります。しかし、実際にエンジンを可動させるには、隠れた部分の情報収集やノウハウが必要でした。ホンダコレクションホールが、1885年製の1気筒のダイムラーエンジンを載せた2輪車(レプリカ)を持つと聞き、2006年に訪問しエンジン始動を見学し、関係者から助言もいただきました。具体的には、燃料(ベンジン)、燃焼手順、加熱されたホットチューブの色(色温度)など、有益な知識・情報が得られました。

ホットチューブ(熱管)とバーナー

図のようにプラチナ(白金)の細い管を外部より加熱し、混合気が圧縮されて熱せられたホットチューブで発火爆発が起きます。しかし、耐熱性に優れたプラチナが高価な

ことや点火時期を自由に調整できない点と、エンジン火災の危険性など欠点でその後普及しませんでした。



ホットチューブを加熱するバーナーの仕組みは、一言で表すと「アルコールランプ」(棉芯をアルコールに浸し燃やす)です。バーナーはホットチューブを加熱する、すなわち点火装置の心臓部です。実車はバーナーの芯材(筒)内の綿芯材がボロボロに劣化し、本来の径・密度がわからない状態だったので、綿ロープなどいろいろ試行した結果、「綿棒」を改造し代用しました。

燃焼実験

まずは4気筒中の1気筒の燃焼試験です。バーナーの芯材(筒)内の綿芯材の詰め具合や、ベンジンの量や浸透時間の調整し点火。データを記録しながら地道な作業が各部で続きました。



エンジン始動がスタート

いよいよエンジン始動させ、整備結果を試す時が来ました。(2010年1月22日)

1. 前準備

バーナー用、エンジン用それぞれの燃料(ベンジン)を注入、各部オイル給油カップ＆オイルポンプにオイル注入と動弁系に給油をします。



2. バーナー着火

余熱皿に燃料を注入し、ライターで着火したが上手くバーナー本体に着火できず、根気よく手順を確認する作業を繰り返す。結果、今までの気温の高い屋内ではなく、今回は冬の屋外で行ったため気温が低く燃料の気化性の悪さとバーナー周囲の余熱不足が原因と判明した。さらに外光のためホットチューブの加熱(赤色)状態判断がし辛い苦労もありました。



エンジンバーナー部点火

3. エンジン始動と走行確認

いよいよクランクレバーを回し、クランクイング開始。「クークークークー」とクランクイングはするもののまったく初爆しない、補助燃料注入量を徐々に増やしながら同じ作業を4~5回と繰り返しエンジン始動を諦めかけた時、微かに初爆があった。隣のメンバーと思わず顔を見合せ、「よしエンジン始動可!」と判断し思い切って補助燃料注入量を増やし、クランクイング開始4~5回後軽やかな音と共にエンジンが完爆。



走行テスト

当初走行する予定ではなかったが、エンジンの調子が予想より良く、急遽「走行」実施しました。まずクラッチを切り、シフトレバーを1速ギアに入れ、クラッチをつなぐと長い眠りから序々に覚めるごとく、ゆっくりと前進を始めた。その後1速・2速・3速とシフトアップ、しかし充分にエンジン出力が出ていないのか4速では走行維持で出来ずNG。今回、初走行としては「良し」として終了しました。

【参考文献】

THE AUTOCAR November 30TH 1901年
世界の自動車9・パナール/ブジョー 二玄社

パナール・ルヴァッソールB2

1901／フランス

○全長×全幅×全高: 3193×1875×2480mm
○軸距離: 1980mm ○エンジン: 水冷直列4気筒 3562cm³ ○12hp/{9kW}/750min⁻¹

panhard et levassor



車両整備室

スタッフ紹介

トヨタ博物館では、常時140台程の自動車を展示していますが、これらの車両はどれもただ展示しているだけではなく、

燃料を入れてバッテリーを繋げばいつでも走らせることができるコンディションに維持しています。

120年以上も前の自動車から近代の自動車に至るまで、年代も生産国も様々な貴重な車両を、いつも良好な状態で皆さんに見ていただけるよう、専任のスタッフが適切に整備を行っています。

そこで今回は、車両整備に携わるスタッフにスポットを当てて、一般の方が目にすることの少ない仕事の様子を紹介いたします。



学芸グループに所属する「車両整備室」の皆さん

リーダーの井谷さんを中心に、男性8名で全ての収蔵車の整備を行っています。
前列左から山田さん、井谷さん、上蘭さん、高橋さん
後列左から鈴木さん、坪倉さん、西岡さん、笠松さん

日常点検



毎日、開館前に展示場を巡回して全ての車両の様子を確認します。



ペテランのスタッフは、一目で車両の異常に気付きます。

定期点検

整備計画に基づいて展示車を順に整備室に運び、本格的な点検整備を行います。



トヨタ2000GTとドラージュ＜フランス＞(奥)の整備を行っています。



古い車だからこそ、愛情を込めて念入りに整備します。

仕事場

新館の1Fに整備室があります。



車両搬送用のエレベーターも完備しています。



整備用ピットもあり、同時に4～5台を整備できます。

こんな仕事をしています

● 来館者への走行披露



研修で来館した学生への走行披露。

● イベントでの実演



クラシックカーフェスタでパレード車を運転。

● 収蔵車の運転講習



T型フォード運転講習会で講師を務める。

皆さんへのメッセージ

メンバーを代表して、リーダーの井谷さんからこんなメッセージをいただきました。
「皆さんに喜んでいただけるよう、気持ちを込めて仕事をしています。古い車なので整備に苦労することも多いですが、自動車文化を守り、後世に伝える仕事を誇りを持って取り組んでいます。博物館で我々の姿を見かけたら、気軽に声を掛けてください。」



2011年1月10日(月・祝)まで
会期を延長しました。
(ご意見・追加情報等をおりこみ
展示の充実をはかっています。)



クルマ写真 ギャラリー展 宝箱

優れた自動車史研究家であり、
著書や雑誌への寄稿も多い五十嵐平達氏自身が撮影・収集された写真を
当館に寄贈いただきてからちょうど10年にあたる節目の年に
写真展を開催することができました。

Part1



街の中で撮影された写真は、カタログを見るのとは違って、車両の背景からその時代を読みとくともできます。今回の写真展では、懐かしい自動車とともに当時の風景もお楽しみください。

五十嵐氏から寄贈いただいた写真は、自動車史を語る貴重な写真が非常に多く、
今後随時ご紹介していきたいと思います。

トヨタ博物館ブログ内「クルマ研究★宝箱」でも紹介しています。
ぜひ一度ご覧下さい。 <https://gazoo.com/G-BLOG/tam/index.aspx>

ご寄贈いただいた写真は約8000点。膨大な
数の写真をコツコツ整理し、分類作業が完了し
ました。

今回のPart1では、戦前・戦後に日本の路上で
撮影された日本車、アメリカ車、イギリス車から
約200点を展示。五十嵐氏の原稿を引用しながら
紹介しています。



東京駅で定点観測された写真を集めて紹介。
自動車の他にも駅の看板の更新、建設中だった
ビルの完成など、時代の変化が一目瞭然。



クラシックカーの運転席廻り 13

シトロエン 5CV タイプ C3

Citroen 5CV Type C3

早戸 真琴

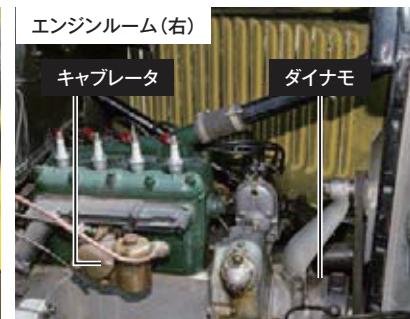
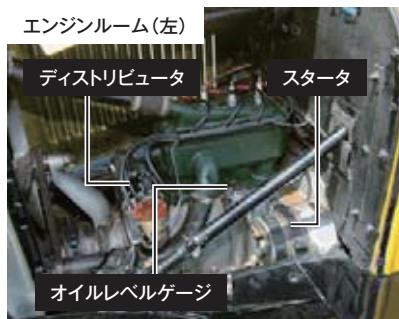
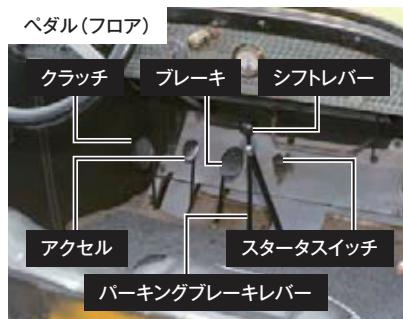
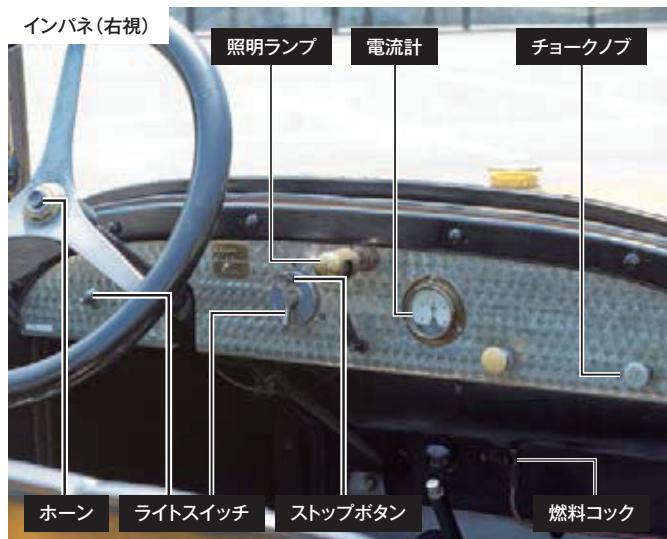


展示場では見にくいクラシックカーの運転席廻りの操作装置や計器類についてご紹介します。今回は、シトロエン5CVタイプC3(1925年 フランス)です。レモンイエローのボディに黒いディスクホイール、なんとも粋な車ですね。ボディ色のレモンイエローは、レモンのフランス語のシトロンに引っ掛けたもの。この車は、フランスの自動車メーカー・シトロエン社(創業者:アンドレ・シトロエン)で造られました。アンドレ・シトロエンは、創業当時からアメリカのフォードに倣った量産方式をヨーロッパで初めて採用し、フランス大衆に安くて、運転操作のし易い実用的大衆車を提供し、大ヒットを収めました。

1922年にデビューしたタイプC、通称5CVは、排気量1リットル以下の自動車ながら大型車の機構と品質を小型車の中に納めた画期的な車で、これまでパリの街を走っていたサイクルカー(小型で安価な乗用車)を脅かす存在になりました。タイプCはその後、C2、C3…へと変わっていきます。

SPEC

- ◎ エンジン型式:水冷直列4気筒サイドバルブ
- ◎ 総排気量: 856cc
- ◎ 出力: 11/8/2100(馬力/kw/min⁻¹)
- ◎ 変速機: 前進3速M/T フロア FR駆動方式
- ◎ サスペンション: 1/4橋円リーフスプリング(前後共)
- ◎ ブレーキ: 機械式(センターブレーキ)
PKB: リヤ(フロントは無し)
- ◎ 6ボルト(アース)仕様 ◎ ドア: 右側1つ



DATTSUN Sunny 1000

ダットサン・
サニー1000

清水 道明

今回カタログでご紹介するのは、「大衆車時代の幕を開いたクルマ」、ダットサン・サニー1000です。

初代サニー

ブルーバードより下のクラスを持たなかった日産が、1966年(昭和41年)4月にデビューさせたリッターカーが初代サニーです。当時は「ダットサン」ブランドでした。

当初2ドアのセダンとバンで販売開始、トランスミッションはコラムシフトの3速MTが組み合わされました。価格は庶民にも手が届く様、セダンのスタンダード41万円、デラックス46万円に設定され、顕在化しつつあった個人需要に応じました。それでも、大卒平均初任給が約2.6万円の時代です。

サニーの設計上のねらいは、①機動性を持たせること、②飽きのこないスタイルであること、③経済性の高いこと、などでした。車体構造の徹底的な研究を通して、ボデー大物一体プレスにより大幅な軽量化を実現、セダン・スタンダードの車両重量はわずか625kgに抑えられました。

新開発の988cc、56馬力という当時のリッターカーではクラス最高の出力を持つ「A-10型」水冷直列4気筒エンジンを搭載、5人乗車時の0→400m加速20.6秒、最高速度135km/hの俊足を誇り、これはサニー発表当時のブルーバード410型の1300に匹敵する性能でした。しかも燃料消費は23km/ℓと超経済的で、カタログでは「ガソリンが生まれて以来いちばん効率のよいエンジンです」と謳われました。このA型エンジンは、その後改良を受けつつ30年間にわたって生産され、名機と語り継がれます。

1967年(昭和42年)4月には4ドアセダン、4速フロアシフトスポーツ車、3速AT仕様、さらに1968年(昭和43年)3月にファストバックスタイルで曲面ガラスを採用した2ドアクーペを追加するなどバリエーションを拡大、大衆車市場の需要の多様化に対応しました。

車名公募キャンペーン

1966年(昭和41年)の元旦の新聞広告で新型車の車名公募を予告、2月初旬の締切りまでの間に848万3105通という大量の応募があり、応募車名は37万9045通りに達しました。結果的に「明るく快活で若々しい新型車のイメージにふさわしい」という理由で選ばれた「サニー」の応募数は意外なことにわずか3279通でした。

応募車名ベスト5	
① フレンド	7万409通
② ポニー	6万230通
③ ポピュラー	5万5140通
④ フジ	5万3443通
⑤ ベガサス	5万1747通

ライバル「カローラ」の登場

サニーは順調に販売を伸ばし、発売5ヶ月で登録3万台を記録しました。しかし、この前に立ちはだかったのが半年後の秋に発売された1077ccのトヨタ・カローラでした。「プラス100ccの余裕～サニーの価格に2.2万円を足せばプラス100ccのクルマに乗れる」というキャンペーンを展開、以後サニーとカローラは販売上でもモータースポーツにおいても“宿命のライバル”となって競い合うことになりました。

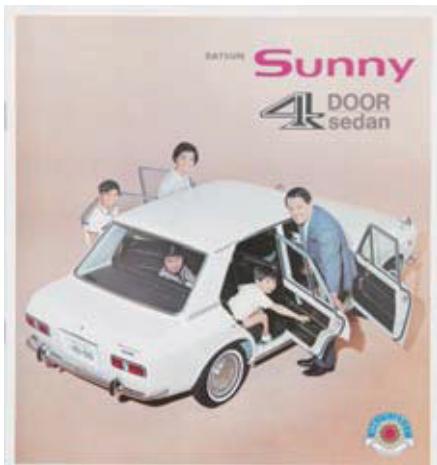
なお、当モデル(2ドアセダン・デラックス)は、トヨタ博物館本館3Fに宿敵カローラと向かい合うかたちで展示されています。



1966年(昭和41年)にバンとともに新発売された2ドアセダン。写真は1967年(昭和42年)のカタログ



2ドアバン。
バンといえどもファミリーユースを訴えているのが時代を感じさせ興味深い。



1967年(昭和42年)に追加された4ドアセダン。
クルマのある楽しい暮らしをイメージさせる。
「ファミリーカーの決定版です!!」



「日本でいちばん“おしゃれなクルマ”」と謳われたサニークーペ。
インパネの丸型3連メーターを特徴とした

【主な参考文献】 日産自動車社史1964-1973 日産自動車株式会社 1975／
セビアカラーで綴る1960年代のクルマたち【国産車編】モーターマガジン社 2006／
日本の名車60台 上巻・1954～1975 學習研究社 2006／
日本の名車100台 ノスタルジックカー 1954-1975 立風書房 1989／
月間自家用車とニッポンのクルマ50年史 内外出版社 2009／
カローラ物語 小田部家正 光人社 1997／日産自動車HP

寄贈情報

CONTRIBUTION



寄贈車情報



BMW 633CSI (1980) 奥 佳澄 様

TAMからの
お知らせ

TAM INFOMATION



トヨタ7走行披露



8月29日(日)にトヨタ7が走りました!

この車両はターボチャージャー付のエンジンを搭載したトヨタ7で、実戦では一度も走ることのなかったマシンです。猛暑にも負けず、たくさんの子どもから大人までが汗だくになって、夢中でクルマを追ったイベントとなりました。

サマーイベント2010を開催



お盆期間の8月11日(水)～15日(日)に開催しました。人気の木のクルマやダンボールクラフトを、多くの子ども達が夏休みの思い出に工作を楽しみました。

秋の走行披露

予告



今回走るトヨタ2000GT

110年前日本で一番最初に走ったクルマといわれるバナール・ルヴァッソールや、人気のトヨタ2000GTなど。詳細はホームページでご確認ください。

日時: 10月16日(土)、23日(土)、30日(土)
11月3日(水・祝)、13日(土) (予定)

トヨタ博物館
クラシックカーフェスタ
in 神宮外苑

予告

11月27日(土) 明治神宮外苑聖徳記念絵画館前



昨年の公道パレードの様子

今年で4回目を迎える東京でのクラシックカーのイベントです。一般募集した日欧米のクラシックカー約100台の公道パレードや当館所蔵の稀少車両展示などを行います。

企画展連動イベント
「しらべて描こう はたらく自動車」

図書室では「みんなでつくる絵画展～しらべて描こうはたらく自動車～」を開催しました。はたらく自動車を図鑑などで調べて自分で描くイベントです。皆の力作は図書室に展示しました。

人力車イベント



8月18日(水)に当館駐車場にて「学生陣屋」(がくせいくるまや)による人力車の無料試乗会を行いました。毎年夏に各地で、より多くの方に人力車を体験してもらうという活動を行っている、関東の大学生で結成されたサークルです。当時の衣装を着た学生たちが汗をかきかきお客様をよろこばせていました。

展示車紹介訂正文

前回の館だよりNo.81にて訂正がありましたのでおしらせします。

P6 右上の表
誤 1995/1-12 → 正 1955/1-12



トヨタ博物館 スモールカー大集合 in アムラックス

当館で春に開催した企画展「スモールカー大集合」の巡回展を東京池袋にあるアムラックス東京にて開催いたしました。当館から6台の車両を出展、東京でも小型車の魅力をアピールしました。



クレイモデルエキジビション 2010を開催

8月26日(木)、27日(金)に日本カーモデラー協会主催のイベント、「クレイモデルエキジビション2010」が開催されました。

学生からデザイン公募した作品のモデルを学生本人とプロのモデラーが公開制作。「こどもカーモデラー教室」では、小中学生達が1/20のクレイモデル造形を体験しました。



タムタムくんの 知ってるかい? クルマ豆知識

夏の企画展「はたらく自動車」でも大人気だったパトカー。

歴史に最初に登場したパトカーは電気自動車だった!?

パトカーが最初に登場したのはいつ?

世界で最初のパトカーは1899年、アメリカのアクロン警察署(オハイオ州)が採用したワゴン型の電気自動車といわれています。時速26キロ、1回の充電で48キロ走ることができ、ライトとゴング、担架を装備していました。最初の任務は真夜中の酔っ払いの取り締まりだったそうです。

日本では、昭和25年(1950年)に警視庁に3台の無線警ら車が配置されたのが最初です。当初のボディカラーは白でしたが、アメリカを見習って白黒のツートンカラーが導入され、昭和30年には全国で統一されました。

レストラン & ショップ情報 — INFORMATION —

ミュージアム レストラン

キノコカレー(サラダ付) ¥1,050(税込)
キノコの美味しい季節になりました。トヨタ博物館名物のカレーに新しいメニューが新登場! シャキシャキと歯ごたえのあるキノコとオリジナルカレーソースの相性は抜群です!!
(10月~12月末までの期間限定メニュー)



ミュージアム カフェ

ライスバーガー ¥300(税込)
少しお腹が空いたときにピッタリ!
タレとご飯の絶妙なコンビネーションが食欲をそそります。
ご休憩のお供にいかがですか?



ミュージアム ショップ

NEXCO中日本ハイウェイ
パトロールカー ¥700(税込)

NEXCO中日本オフィシャルのミニカーです。ディテールの再現に徹底的にこだわったフルバックタイプのミニカーです。幅広い年齢層の方に楽しんでいただける仕上がりとなっています。



みなさまのご利用をお待ちしております!





スタンレー スチーマー モデル E2

(1909／アメリカ)【当館所蔵】



TOYOTA AUTOMOBILE MUSEUM トヨタ博物館だより NO.82

発行 トヨタ自動車株式会社 トヨタ博物館
〒480-1131 愛知県愛知郡長久手町大字長湫字横道41-100
TEL 0561-63-5151 FAX 0561-63-5159
ホームページ <http://www.toyota.co.jp/Museum/index-j.html>

発行人 川本常敬 ※無断転載禁止